

No.11 2026年2月8日

公現後第五主日礼拝
 説教『よく聞く心』
 吉丸初美師
 司会 吉丸初美さん
 奏楽 自動演奏機
 招詞 ヘブル人手紙 4章12～13節
 主の祈 (5 6 4)
 讚詠 5 4 6
 交読詩編 詩 9 9 編
 祈禱 美歌 2 1 - 5 8
 使徒信条 (5 6 6)
 聖書 ルカ福音書 8章4～15節
 説教 (口語訳98頁,新共同訳119頁)
 『よく聞く心』
 祈禱 美歌 2 1 - 1 5 7
 献金 謝告 栄 5 4 0
 祝 禱 奏
 後

次週の礼拝 (公現後第六主日礼拝)
 説教『十字架への道』
 マルコ福音書 8章31～38節
 招詞 I コリント人 13章13節、交読詩篇31編
 讚美歌546、21-303、21-306、541

礼拝当番
 今週8日 司会 吉丸初美さん
 来週15日 司会 安部愛さん
 会堂清掃奉仕 3月1日(日)
 コーヒータイム後に行ないます。

本日の集会

★教会学校 午前9時45分
 ★コーヒータイム 礼拝後～
 それぞれの思いを語り合しましょう。

今週の集会/スケジュール

★聖書を読む会 2月10日(火) 10時30分～12時
 創世記10章を読みます。
 §2.11「建国記念の日」を問う広島集会 2月11日(水)
 14時～16時 / 講師:小河義伸さん
 講演「信教の自由を生きる～戦争準備に抗して」
 ※めぐみ幼稚園礼拝 2月13日(金)10時～
 ※めぐみ幼稚園発表会予行 2月13日(金)10時30分～

次週以降のスケジュール等

★2月定例教会役員会 2月15日(日)
 教務・教勢報告、教会総会に向けて協議します。
 ●レコードコンサート 2月15日(日) 13時～15時30分
 モーツァルト 弦楽四重奏 第14番ト長調《春》
 モーツァルト 弦楽四重奏 第15番ニ短調
 モーツァルト 交響曲第40番ト短調Kv.550
 §広島キリスト教信徒会理事会 2月17日(火)10時30分
 於:広島復活教会
 ★広島西分区牧師会 2月17日(火)15時～16時30分
 於:広島南部教会
 §広島拘置所教誨奉仕 2月18日(水)13時30分～
 §清鈴園礼拝(説教)奉仕 2月19日(木)10時30分～
 ※めぐみ幼稚園発表会 2月20日(金)10時30分～
 毎日練習してきたその成果を保護者の方々の前で発表します。覚えてお祈りください。
 §広島県教誨師会総会 2月20日(金)16時～20時
 §喜音伝道所(西宮)山根師説教奉仕 2月22日(日)
 ★聖書を読む会 2月24日(火) 10時30分～12時
 §庚午小学校協力者会議 2月26日(木)18時～

先週の集会	男	女	計
教会学校	0	0	0
主日礼拝	3	3	6

◇今週の説教要旨(公現後第五主日礼拝)
 説教『よく聞く心』ルカ福音書8章4～15節
 たとえを使うときは、たいていの場合、抽象的な言葉を分かりやすくするためです。例えば広い面積が想像できない時東京ドーム何個分とか言います。そうすれば、何となく想像できます。イエス様はたとえ話をされていますが、今日の所はかなり難解です。言い換えれば、わざと理解できにくくたとえを使っていると感じます。また、今日の「種をまく人のたとえ」では、種をまく人が誰なのかを語られていません。いったい誰なのでしょう。また何故なのでしょう。それは、このたとえの中心が「誰が語ったか」ではなく「どのように聞いたか」にあるからです。種は同じ神の言葉。違いが出るのは、その後聞き続けたかどうかのようです。信仰生活において「これには意味があるのだろうか」「続けて何か変わるのだろうか」と思ったことは何度もあります。聖書を開かず、祈ることもなく、少し疲れていた時もありました。でも、暫くするとまた聖書を開いている自分がいました。無駄な時間を過ごしたようでしたが、離れてもまた戻って結局は、離れずにいることができたようです。信仰とは直ぐに結果が出る歩みではありません。途中でやめたくなる理由は誰にでもあります。それでも、御言葉にとどまり聞き続け、歩み続けるとき、神はそれを喜びに変えてくださいます。
 種はまかれます。それが如何なる土地に落ちるのか誰も分かりません。土地は踏み固められ、石が混じり、茨が生えることもあります。でも、それでも耕され、受け止め、保ち続ける土地が「良い土地」ではないでしょうか。しかしその「良い土地」にも、また油断すると石が混じり、茨が生えることもあるでしょう。実を結ぶには忍耐が求められています。これは、歯を食いしばったり、修行することではありません。無理をすることでもないのです。それは、イエス様から離れないこと、聞くのをやめないことです。まく人が誰であれ、語り手が上手であれ下手であれ、実を結ぶかどうかは、聞き続けたかどうか。誰が御言葉を語ったかではなく、それを私たちが聞き続けたかどうかなのです。養い育ててくださるのは、ただひとり、創造主である天の父なる神です。